

平成29年度特別外来

対象障害	発達障害				発達障害・運動発達遅滞	運動発達遅滞	肢体不自由・重症心身障害		
名称	くらげ外来	とびうお外来	カナリア外来	いるか外来	ももくり外来	ひよこ外来	水治療法外来 (らっこ)	水治療法外来 (しろくま)	水治療法外来 (くじら)
目的	子どもの個性に合った、行動のうまくいくコツを知り、子育てをより楽しく、前向きにすることを目指します。 保護者同士のペアワークを通して、①「行動」で考え②ほめて対応し③仲間を見つけます。	行動療法を取り入れた、子どもへの対応の方法を具体的に学びます。	講義を通して特性への理解を深め、保護者同士の交流によって心理的負担を軽減することを目指します。	小集団療育を体験します。 コミュニケーションの発達を促がすとともに、保護者にお子さんの特性の把握や関わり方の理解を促すことも目標にしています。	着替え、食事や運動を小集団で練習します。 また、段階付けて取り組みやすくし、家庭でも自立できることを目標にしています。	運動発達に遅れのあるお子さんに、遊びを広げてコミュニケーション能力の向上を図りながら発達を促がすことを目指します。 運動遊びや感覚遊びなどを利用してコミュニケーションの楽しさを体験します。	初級コース： リラクゼーションによる過度な緊張の軽減と浮力の補助を利用して、日常的に経験できない姿勢変化や運動を体験することで水の楽しさを学びます。	中級～上級コース： 4泳法にこだわることなく、ご自分の障害にあったスタイルでの泳ぎの習得を目標にしています。	水の圧力や浮力、抵抗を利用して、ボディイメージを高め、運動の楽しさと体の使い方を学びます。
対象	発達障害児(年中～小学生)の保護者	発達障害児(特にADHD)の保護者	高機能自閉症児の保護者	発達障害児(ASD、ADHD) 年中、年長児	発達障害児または運動発達のゆっくりな年少、年中児	0歳～の肢体不自由、運動発達遅滞で、リハビリテーションを開始しているお子さん、もしくはこれから必要とするお子さん。	プール内で保護者の介助が必要な児童。比較的、低年齢もしくは運動障害が重度な方。	頸が座っており、プール内で動ける児童。比較的、水慣れが進んだ方。	明らかな運動障害が無いにも関わらず運動が苦手な児童。年齢は年中～低学年。
療育形態 人数	ペアレント・プログラム 定員6名	ペアレント・トレーニング 定員6名	①講義②実践の話し合い 定員8名	集団療育(母子) 1グループ定員6名	集団療育(母子) 1グループ6名	集団療育(母子) 1グループ6～9名	登録は随時(医師による水治療法の指示が必要)。 1回につき6名まで。 原則、保護者の方も一緒に入水して頂きます。 (しろくまはお子さんの状態によって単独での入水も検討致します。)		
期間 曜日 時間	木曜日 午前10時30分～11時30分 1クール 5回(1時間) 6/1、6/15、6/29、7/13、 7/27	木曜日 午前9時30分～11時30分 1クール6回(2時間) 9/7、9/21、10/5、10/19、 11/2、11/16	毎月水曜日 午前9時30分～11時30分 1クール5回 6/7、7/5、8/9、9/13、 10/11	月曜日 午前9時～10時 1クール9回 (保護者学習会も実施) 前期:5月15日～7月10日 後期:10月16日～12月11日	水曜日 午前9時35分～11時20分 1クール6回 10/18、11/1、11/15、 11/22、12/6、12/20	午前8時50分～9時30分 1クール8回 今年度開催日未定	通年毎週水曜日 (第2・4) 午後3時～4時 (第1・3・5) 午後4時～5時	通年毎週月曜日 午後4時～5時	通年毎週木曜日 午後4時～5時
スタッフ	小児科医、心理職員	小児科医、心理職員	児童精神科医、 小児科医、心理職員	児童精神科医、 小児科医、言語聴覚士	医師 作業療法士	リハビリテーション科医 小児科医 言語聴覚士、保育士 理学療法士	理学療法士	理学療法士	理学療法士
申し込み	心理職員 三好(3613)	心理職員 和田(3613)	心理職員 三好(3613)	言語聴覚士 西村(3616)	作業療法士 気谷(3619)	言語聴覚士 園山(3616)	理学療法士 牧野(3617)	理学療法士 林(3611)	理学療法士 三谷(3611)